

シリウスペーパー 第四号!

シリウスペーパーは、シリウスライティングオフィスが、不定期に発信する新聞です。お客様や、関係会社のみならず、さまざまなコミュニケーションツールとして、この新聞を通して、少しでもお近づきになれたらと思っています。

SIRIUS  
OFFICIAL  
INSTAGRAM



シリウスでは最新のお仕事の写真等をインスタグラムにアップしています!

Follow me!

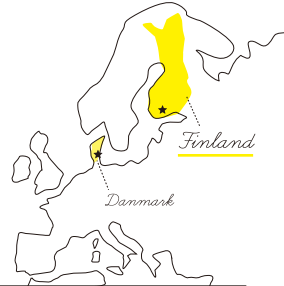
facebookも  
随時更新中!



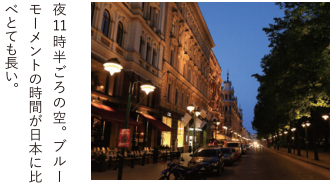
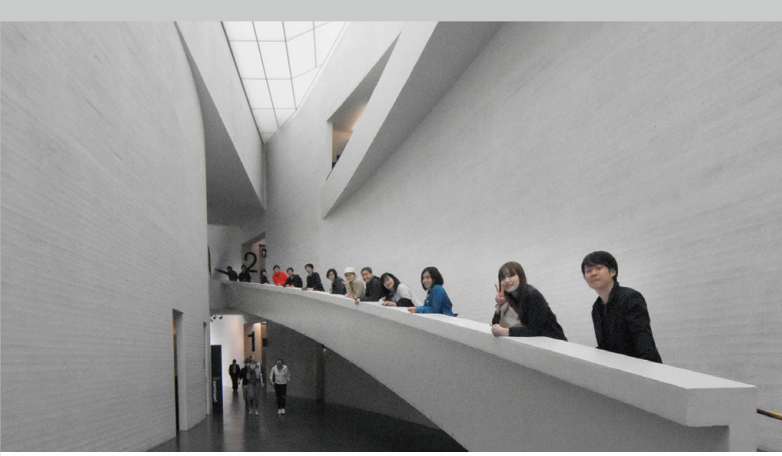
COMPANY TRIP

## 2016.5.26-6.1 北欧社員 研修旅行

Vol.1  
フィンランド編



5月末にフィンランド・デンマークへ社員研修旅行に行きました。2カ国で約30カ所を回り、充実した内容となりました。今回は最初に訪れたフィンランドのヘルシンキについてレポートします。ヘルシンキは明るい色を基調とした美しい街並みや歴史ある石畳の中をトラムが走る景色が、西欧の街並みとは異なる印象を受けました。私達はアルヴァ・アールト、ユハ・レイヴィスカに代表される北欧建築を中心に見学し、自然光・人工光が丁寧に計画された空間を体感しました。日中は肌寒くも街の活気が初夏を感じさせ、郊外に溢れる木々は緑豊かで、美しい季節に訪れる事が出来たと思います。夜は日没が21時半頃と遅く、ゆっくりと日が沈んでいく時間を体感しながら光の大切さを再認識しました。



夜11時半ごろの空。ブルーモメントの時間が日本に比べても長い。

### MYRMAKI CHURCH

#### 設計：ユハ・レイヴィスカ

ヘルシンキから少し郊外にある「Louhe」駅の脇に位置する教会です。この教会のテーマは「sunlight」。自然光とペンダント照明のみで教会内部の明るさを確保しています。陽の入り方が異なる午前と午後では空間の印象が全く違うそうですが、私たちは午前中に見学しました。トップライトと壁面の随所に設けられたスリット状の窓から自然光が降り注ぎ、教会を明るく照らしていました。またユハ自身の設計したペンダントライトが空間にいくつも配置され、白色を基調とした内装と色温度の低い温かな光がこの教会に荘厳な雰囲気をもたらしていたと思います。1つの礼拝空間のみの教会でしたが、気が付けば1時間があっという間に過ぎました。日本や香港とはまったく違う空間体験にスタッフも大感激でした。



ユハ自身が設計したペンダント。光源が隠れており、眩しさを感じない設計となっている。教会内では長いワイヤに吊るされ、4つで1グループとなり空間にランダム配置されていた。

#### JUHA ILMARI LEIVISKÄ

【ユハ・レイヴィスカ】

1936年生まれ、フィンランド出身の建築家。ミュルマキ教会はコンペティションを経て建設された。その他、バキラ教会・マンニスト教会などを設計している。

### THE AALTO HOUSE / STUDIO AALTO

#### 設計：アルヴァ・アールト

ヘルシンキの定番とも言えるアールトハウス。スタジオアールトのガイドツアーに参加しました。その中で印象的だったスタジオアールトのアトリエについて紹介します。このアトリエは天井にダウンライトがなく、部屋の両側にあるハイサイドライトから入ってくる自然光がやわらかい光の空間を作り出していました。デスク周りにはデスクスタンドが、壁にはアップライトが設置され、夜間や冬期の自然光が無い時にはデスクスタンドの光と天井を照らすアップライトの光のみで明るさを取っていたと想像できます。どの部屋も反射を利用したやわらかい光とペンダ



↑ 1000lx

↑ 500lx

#### HUGO HENRIK AALTO

【アルヴァ・アールト】

1898年生まれ、フィンランドを代表する建築家。アールトハウス・スタジオアールトはアールト自身によって設計され、家具や照明のほとんども彼による作品。ヘルシンキ工科大学・フィンランドシアホール・アカデミア書店など数々の有名建築を設計している。



VOL.5は、  
北欧研修旅行 デンマーク編



アトリエの壁面に設置されていたライト。光源が見えない高さに設置されていた。

ントやスタンドで構成されており、明るく清潔感のある印象でした。自然光の取り入れ方ややわらかい人工光のバランスがとても勉強になる2つの建築でした。